

天王山てんわうさん仏国寺ぶつこくじは伏見城山ふしみしろやまのひがしにあり、開基は黄檗山五世高泉和尚わうばくさんごせかうせんかうしやうなり。〔大明福州の人なり、承応三年日本へ

渡海す〕仏殿の本尊には釈迦仏を安置す、額がく〔普光明殿ふくわうみやうでん〕高泉の筆なり。柱に聯をかくる、〔四面■松吞吐九天日月、

千重宝構繞二圃万里山河。〕共に高泉の筆なり。禅堂ぜんだうの額がく〔選仏場せんぶつぢやう〕即非そくひの筆なり。食堂じきだうの額がく〔五觀堂ごくわんだう〕高泉の筆。開

山堂さんだうの額がく〔無尽燈むじんとう〕一乗院信敬法親王の筆。堂内には高泉和尚の像を安置す。大悲閣には觀音を安置して、額は高泉の

筆なり。南の門額みなみもんのかく〔天王山てんわうさん〕木庵もくあんの筆。柱に聯を掲る高泉の筆なり、〔四衆雲奔朝二仏国、万山玉立護二天王。〕高泉碑

銘めい〔紫銅を以てこれを鑄、台座は亀の形にして共に紫銅なり。正徳元年五月廿六日摂政太政大臣せつしやうだいじやうだいじん從一位家熙公あゐへひろこれを

記す〕

金涌水こんゆうすゐ〔右のかた松の下にあり、早といへども竭る事なし、水軽くして茶の湯に可なり〕

觀音巖くわんおんがん、千仏台せんぶつだい〔共に当寺の後山にあり〕